

安曇野の原風景を巡る ふるさとウォッチングマップ

No.16

穂高狐島地区

—屋敷林と伝説を訪ねて—

狐島地区は烏川・乳房川合流地点の下流域の穂高川と高瀬川の氾濫原に立地し、古代中世以来水害の歴史を繰り返してきました。元禄15年(1702)の洪水によって、穂高川の流路がほぼ現在の流路に変わって、等々力地区との境界になりました。昭和34年(1958)の伊勢湾台風の大洪水でもワサビ田が流失するなど大被害を受けましたが、度重なる氾濫にもめげない先人たちによって安曇野でも有数の肥沃の地になりました。



編集・発行
安曇野ふるさとづくり応援団

URL <http://azumino-furusato.com>

※本マップは公式サイトからダウンロード可能です

◆コースタイム ※時間は歩速3km/時としての目安です(休憩含まず)

スタート 狐島公民館→約0.3km*6分→白狐神社→約0.4km*8分→旧常盤橋跡→約1.3km*26分→高橋節郎記念美術館→約0.6km*12分→狐島観音堂→約0.8km*16分→
ゴール 狐島公民館 【合計】約3.4km:1時間8分



このコースは平坦な歩きやすい道です。天候に恵まれればアルプスの展望を眺めながらの快適なウォーキングになりますよ♪

※私有地への立入はご遠慮下さい。



(a) 土蔵造りと白壁の道
度重なる氾濫を経て豊かな農村地帯に変貌



(b) 屋敷林に挟まれた小路
ニューウェーブの屋敷林、紅葉時必見



(c) 石像のある古民家
入口に大黒天や馬頭観音等の石像



(d) 狐島の白鳥
北アルプスをバックに飛翔する白鳥



(e) 安曇野水鏡
屋敷林が映える田植え前後の水田

平成26年度 長野県地域発元気づくり支援金活用事業

① 白狐神社

狐島の産土神社で旧村社。戦国時代の永禄元年(1558)の創建と伝えられ、キツネの地名は戦国時代に領地を接している豪族たちの監視所(狐)があったからとされます。白狐神社と名付けられているのは、坂上田村麻呂に攻められた八面大王が白狐に化けてここまで逃げて捕まったとの伝説に基づいたものと思われる。



八面大王の伝説が残る白狐神社

② 旧常盤橋跡

狐島と狐小路を結んだ旧常盤橋跡。明治15年(1882)に橋が完成するまでは渡船場がありました。対岸の狐小路はかつての歓楽街で、安曇節にも唄われています。

♪狐小路で化かされ抜いて またも思案のうろて橋
♪小路芸者は獺師にゃ負けぬ時と場合で肘鉄砲
♪狸オヤジも小路を通りゃ 小路狐に騙される



穂高川の旧常盤橋跡

③ わさび栽培発祥の地

文政2年(1819) 狐島の高山五平が鹿島槍ヶ岳山麓から土産として山葵を一包み持ち帰って植えたと伝えられています。文久元年(1861) 高橋太四郎が地下水湧出地(現在天理教分教会北裏)へ約50坪の山葵田を造成し、明治初年東穂高村方面に出荷販売したのがワサビ生産の始まりとされます。



砂作りのワサビ田

④ 屋敷林の小路

屋敷林で囲まれた屋敷が連なる集落の中の湾曲した小道。両側は手入れの行き届いたイチイ・ソヨゴなど生垣が続いています。なかには落葉広葉樹と常緑広葉樹をバランスよく配置したオープンガーデン風に庭づくりをされたお宅もあって、目を楽しませてくれます。いわばニューウエーブの屋敷林です。



屋敷林に挟まれた小路

⑥ 安曇野高橋節郎記念美術館

高橋節郎の生家に平成15年(2003) 開館。コレクションは高橋節郎の屏風、パネルをはじめとして、乾漆立体作品、漆絵版画、漆クラフト作品など多様な漆芸作品や、墨彩画、書などの作品。漆芸作品の下図、デザイン画、高橋節郎幼少年期の絵やノートなども収蔵しています。(要入館料)



安曇野高橋節郎記念美術館

⑦ 高橋節郎の生家

茅葺き屋根の主屋は、江戸中期の創建と推定されます。土蔵造りの南の蔵は、主に収穫したコメの一時貯蔵に使われました。北の蔵、西の蔵は、主に生活用具などをしまっておくための土蔵でした。主屋と各土蔵は、この地方の農家の昔のたたずまいを残しています。(美術館開館日のみ見学可 見学無料)

【主屋他：国登録有形文化財】



江戸中期のたたずまいの主屋

⑤ 狐島観音堂

元禄11年(1698)狐島中木戸の守堂として創建されました。明治4年(1871)廃仏毀釈のため廃堂となり、その後、研成学校の支校・狐島小学校として利用されました。大正2年(1913)に旧阿弥陀堂を観音堂として新しく再建され、地区住民の信仰の中心地として大事にされてきました。



狐島観音堂と石造文化財群

狐島の地名の由来

狐島の地名の由来には三つの説があります。

- ①高瀬川と穂高川に挟まれた島で古厩氏・穂高氏・等々力氏・貝梅氏・渋田見氏の中世の監視所(狐)があったからという説。
- ②伝説の八面大王が白狐に化けて逃げてきて打ち取られた場所だからという説。
- ③汜濫原が藪に覆われていたので狐が多かったからという説。



白狐神社の近くには八面大王が殺されて胴が埋められているとも、手下の野狐たちが葬られているとも伝わる塚が残されています。